



# 宮司プレス 百十六号

彦島八幡宮 宮司ニュース  
発行者 彦島八幡宮  
宮司 柴田 宜夫  
発行 平成二十八年 七月二十一日

◇宮司の柴田です。梅雨晴れの夏の光は強く感じられる昨今でしたが、いよいよ梅雨も明け、夏本番を迎えました。お待たせしました、宮司プレス第百十六号の発行です。

先月号の発行が梅雨入りと同時にでありましたので、梅雨の季節と同じように、宮司プレスの発行も湿りがち、滞ってしまつたようです。先月は、一月に二回発行という快挙達成かと思わせるような、月初めの発行でしたが、今月も、朝粥会当日の発行という、悪しきルーティンに逆戻りであります。平成十八年六月に第一号を発行した宮司プレス、毎月発行が継続されていれば、今月号は、第百二十一号のはずであります。したがって、五ヶ月遅れの軌道が修正されないうまま、いたずらに時を過してしまいます。かろうじて、遅れの累積(るいせき)を阻止(そし)しているのが、現状であります。

◇先月の三十日には、大祓式(おおほらいしき)を齋行(さいこう)しました。先月の二十九日に、茅(ち)の輪(わ)の奉製(ほうせい)を予定していましたが、雨天という



◇今月は、当宮をはじめ、宮司を兼ねている田の首八幡宮、六連島八幡宮、さらには、海士郷恵比寿神社の夏越祭を御奉仕申し上げます。夏越祭の神事では、「菅拔(すがぬ)き神事」を齋行(さいこう)します。人形(ひとがた)に茅(かや)をとおしたものを両手で捧げ持ち、茅(かや)と蓬(よもぎ)で奉製した菅(すが)という輪を抜けて参拝します。文明が、今のように進歩していないころ、私共の身のまわりにおこる、ごく一部の不幸な出来事や病気やケガは、「罪(つみ)」「穢(けが)れ」から起こると信じられていました。特に、この暑い夏、疫病(えびきょう)が、蔓延(まんえん)しますので、茅(ち)の蓬(よもぎ)の霊力(れいりょく)あやかり、大難(だいなん)は小難(しょうなん)に、小難(しょうなん)は無

難(ぶなん)に乗り切ろうとした先人たちの知恵なのです。

◇神社神道は、明浄(めいじょう)、を尊(とうと)ぶ宗教です。明浄は、清らかで明るい姿、それは、人間本来の姿で、神様が好まれる姿でもあるのです。したがって神社神道は、罪(つみ)や穢(けが)れ、汚濁(おどく)を嫌います。私共は、神様が好まれる姿に立ち返って、生活することが大切だと信じられてきたのです。

◇神社に参拝されたとき、境内の手水舎(てみずや)で手を洗い口を漱(すす)ぐのも、神職によるお祓(はら)いを受けるのも、心身の罪穢(つみ)れを祓除(はら)いで、明浄なる、神様の好まれる人間本来の姿に立ち返る儀礼(ぎれい)なのです。したがって、この儀礼(ぎれい)には、神道は成立しないとんでも過言(かごん)ではないと思います。神様への祈願(せがん)も、感謝(かんしゃ)も、奉告(ほうこく)も、慰霊(いれい)も、すべての神様への神事の大前提となるのが、「清め」です。この清めのことを、神道では、「祓(はら)い」といつているのです。今月の当宮をはじめ、兼務社、末社(まつしや)の夏越の祓(はら)いの神事は、明浄なる本来の神様の好まれる姿に立ち返る、清め祓(はら)い、最も重要な儀礼(ぎれい)といえます。厳(おごそ)かに、遺漏(いろう)なく御奉仕(ごほうし)上げたいものです。

「ありきつつ きつつくれども いさぎよき

人の心さえ われ忘れぬや」

この和歌は、記念すべき宮司プレス第一号にも掲載しましたが、詠(よ)み人知らずで、新古今和歌集(しんこきんわかしゅう)に、おさめられています。永い人生をみてきたときに、心身ともに明浄なる者が、神の心にかない、幸せな人生をおくっているようだという意味です。心身ともにいさぎよき、明浄な姿の大切さを論(さと)しています。常日頃から心がけたいものです。

◇神様のことは、ただ「神」といえばいいのですが、「神明」とも申します。私共も、

「神奉仕」ではなくて、「神明奉仕」と申し上げます。「神明」といえば、平安時代から伊勢の神宮さんのことです。神様のうち

でも最も徳が高く、明らかな神様であるから、「神明」の文字を当てたそうです。このこ

とを、林羅山(はやしらざん)の門下生で、寛文(かんぶん)年間に、神需一致(しんじ

ゆいっち)の神道を説いた、宮城春意(みやぎ しゅんい)は、「神は正直にして明らか

なり、故に神明といふ」とおっしゃっています。明浄なる姿とは、身体が清浄で、心が

正直なことなのです。伊勢神道(いせしんとう)でも、倭姫命世紀(やまとひめのみこ

とせいき)に、「正直の頭(こうべ)に神宿る」と書かれています。「正」は、誠一途

(まこといちぢず)に生きることで、「直」は、悪を反省し、少しでも善き方に向かおうと努力することです。神様は、そのような人々の心を喜ばれて、そば近く見守ってくださいと説かれています。

まさに、正直は、私の本年の書初めの「神喜(じんき)」、神様の喜ばれる心なのです。

◇酷暑、猛暑の日々、明浄なる姿、人間本来の姿である、「身体清浄 心正直」で、乗り

切り、神様の御心に叶って、幸せな日々でありたいものです。ご自愛をお祈り申しあげ

ます。

◇六月の祭典行事報告

▼月次祭 \*六月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 \*六月一日

▼海士郷恵比寿神社例祭 \*六月十日

▼貴布禰稻荷神社例祭 \*六月十一日

▼大祓式 \*六月三十日

◇六月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇早起会総会 \*六月一日

◇山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁教学研究部第二回正副部長会議

\*六月六日

◇北九州神職会親睦野球大会\*六月十三日

◇山口県敬神婦人連合会総会

\*六月十四日

◇山口県神職夫人の会総会

\*六月十六日

◇下関支部宮司会、下関支部幹事会

\*六月二十日

◇下関市建国記念の日報祝会役員会

\*六月二十三日

◇神職養成講習会講師打合せ、山口県神社

庁定例協議員会 \*六月二十四日

◇巡回祭典後講話研修会\*六月二十八日

◇教誨(きょうかい)活動

※美祢社会復帰促進センター

◇釈放前指導 \*六月二十九日

◇下関西ロータリークラブ

◇例会 \*六月八日、二十二日、

二十九日

◇第二回クラブ協議会 \*六月十七日

◇理事会 \*六月二十二日

▼その他

◇西山小学校コミュニティスクール運営

協議会 \*六月二日

◇玄洋中学校歓送迎会 \*六月十日

◇西信経友会親睦行事 \*六月十二日

◇リバーズ彦島例会 \*六月十八日